

L04b            **2014年ほうおう座流星群の放射点について**

土屋 智恵 (放送大), 佐藤 幹哉 (かわさき宙と緑の科学館), 渡部 潤一 (国立天文台), 佐藤 智子, 戸田 雅之, 藤原 康徳, 植原 敏, 木下 正雄, 嵯峨山 亨 (日本流星研究会), 戸田 博之 (国立天文台岡山), NHK コズミックフロント取材班

2014年12月1日前後に出現が予想された、ほうおう座流星群の流星の放射点については、ダストトレイル理論からの予測では、赤経 $6^{\circ}$ – $9^{\circ}$ 、赤緯マイナス $26^{\circ}$ – $29^{\circ}$ の範囲であり、また対地速度は極めて遅く、秒速10キロメートルを切る値になるとされていた (Sato & Watanabe 2010)。これだけ低速の流星群の場合では、みかけの放射点の位置は、天頂引力によって大きくずれると考えられる。また、観測時刻によっては地球の運動を加味しないと、放射点の分布も正しく表わされなくなる。

スペインおよびアメリカへの遠征観測隊によって撮影されたほうおう座流星群に属する流星から導出された放射点、および日本国内におけるカメラネットワークによって得られたほうおう座流星群に属すると思われる流星についても放射点を得られている。本講演では、これらの観測された放射点と、理論的な放射点とを比較した結果を報告する。